



JEFMA活動

## 当工業会が、し尿処理施設の 亜酸化窒素発生実態調査

環境省地球環境局は本年 7 月に、「事業者からの温室効果ガス排出量算定方法ガイドライン（試案 ver1.2）」をホームページに掲載した。当局はこのガイドラインにより事業者が自主的に温暖化ガス排出量の算定に取り組むことを期待し、さらには、本ガイドラインの内容を精査し、内容を充実させていく予定であるとしている。

2000 年度の廃棄物部門から排出される温暖化ガス（二酸化炭素）の総排出量は、我が国の総排出量の 2.0%をしめるにすぎないと報告されており、さらにし尿・浄化槽汚泥処理施設からの排出量はその 10%にも満たないものと推定される。

しかしながら、し尿・浄化槽汚泥処理にともなって排出される温暖化ガスの実態を把握し、前記ガイドラインに掲載されている数値（排出係数）を確認することは、施設の設計、施工を請け負う側

として当然なことであるとし、当工業会の[水]処理を専門とする有志会社 9 社は、全国から約 36 施設を選び、それらの施設について、温暖化係数が高い、亜酸化窒素（一酸化二窒素、 $N_2O$ ）ガス排

出量の実態調査を行う予定である。

調査結果は、廃棄物関係専門誌に発表すると共に、環境省温室効果ガス排出量算定方法検討会廃棄物分科会に提出を予定している。

## 生ごみバイオガス化施設を見学

JEFMA 平成 15 年度第 2 回施設見学会



北空知衛生センター生ごみバイオガス化施設全景



メタン発酵槽(地下)とメタン膜分離槽

平成 15 年度第 2 回施設見学会は、(株)クボタ殿が納入した北海道北空知衛生センター生ごみバイオガス化施設を対象に 8 月 27 日に行った。岡山大学環境理工学部田中 勝教授を座長にお願いし、会員会社から 21 名が参加した。見学会は(株)クボタ水環境エンジニアリング技術第一部長の岩尾氏の司会によってすすめられた。まず、衛生センター所長の稲葉氏から、組合が生ごみのバイオガス化をとり入れたいきさつ等についての説明をいただいた。続いて、(株)クボタ水環境エンジニアリング技術第一部開発グループの山本氏から施設内容について机上説明をいただい





施設の説明をする(株)クボタ開発グループ 山本氏



北空知衛生センター稲葉所長(左)と(株)クボタ 岩尾部長

た後、岩尾、山本の両氏の案内で施設内を見学した。

本施設は本年4月から稼動したもので、対象人口4万2千人から分別収集した家庭生ごみ一日当

り約10トンをメタン発酵と活性汚泥法により処理を行い、処理水は下水道に放流されている。また、施設運転に必要な電力と加温用熱源は、発生したメタンガスにより賄われている。

## カナダ及び北欧へ 環境調査団

国際環境整備研究委員会（萩原 均委員長（石川島播磨重工業株）は、バイオマス利用技術等を調査するための調査団をカナダ・バンクーバー市へ派遣する。調査団は萩原委員長を団長として、国際環境整備研究委員会委員会社及び事務局から、総勢 12 名が参加する。

一行は 10 月 5 日に成田を出発し、バンクーバー市を拠点として周辺の施設、関係機関等を訪問、11 日に帰着する予定である。

一方、当工業会技術委員会委員による海外環境事情調査実行委員会（澁谷榮一委員長（JFEエンジニアリング株）は新エネルギー利用状況等の調査を目的とした調査団を、11 月初旬、北欧方面へ派遣することを決め、現在詳細な調査計画を検討中である。